

新撰實用

速記學講義錄

第三卷

會長渡邊喜勢治講述

東京速記法研究學會

252

634

第三卷目次

- 第二十三章 綴符法赤城艦内美談ノ續キ
- 第二十四章 動詞ノ説明並ニ略符
- 第二十五章 感動詞ノ説明並ニ略符
- 第二十六章 議會用語略符
- 第二十七章 諸官衙名稱略符
- 第二十八章 諸學科目名稱略符
- 第二十九章 綴符法並ニ譯文(議事録秒)
- 第三十章 練習ノ方法及其他ノ注意

廣勝氏ノ負傷ヲツイテ又

ホバシラノ上ニ橋口云フ候補生ガ

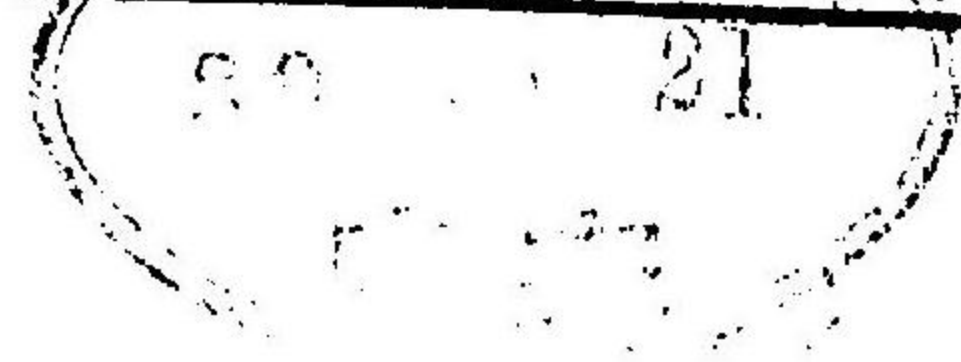
敵艦ヲ測量シ居ッタリガ打オト

サレ今度ハ艦長坂本少佐カ

実ニ勇シセンヲトゲ又航海長

佐勝大尉ガ代ツテ戦ヒテ督シ

タルニ此大尉モ又傷ケラレ



遂=松岡大尉が代ッテ
 戦ヒヲ督シタ如此ク苦戦=クセンヲ
 加ヘテ幸ヒ=其中ヲ切
 抜ケテブナン=歸ツタガ何
 シロ如此ク苦戦ヲヘタテ故此
 小船ハ数十発ノ敵弾ヲ
 受ケ兵士モ多クタレテ三十餘名

下十四

負傷者ヲ出シタテ有ス此ノ時=或ハ最
 沈着ナルフルマイヲシタモノモアリヌ
 軍人ノカミシテ
 フルマイヲシタ者=多クハ
 一等兵曹 岩野浪助
 フル者ハ 丁度補索 師ト
 稱シテナリノキレタル時ツナク

下十四

後目ヲナシテ居ツタカ 戦闘ノ際敵

弾ガ前部 下甲板ニ 来タツテ

ハレツテ四名ノ兵員ヲ倒シ

蒸気機関ヲ破ツテ蒸気ヲ逆シ

ルノガ サカシニナリ 且

其ケムリモ ヒロガリ

タレバ 火災ガ 起ツ外云フ者モ

四十二

アツタ一軀ヲネデ 火災ガ起ツ

時ニハ之ヲ消スタニ 防火隊ト

云フ者ガ 其ガ其 隊ハ

ニナ 戦死シテシマテ 下甲板ハ

ケムガ 充滿シテ 少シモ

モノガ ワカラヌ 其

中ニ 蒸気ヲアルカラ 非常ニ

四十三

熱度ガサカニナツタガ 誰アツテ之ヲ
 見届ケニ行キ 愈々火災
 ナラバ 如何ニ處置スルト云フ考
 アル者モ ナカッタ 然ウスルト
 岩野兵曹ハ 敵彈 来ル中ヲ
 モ、トモセス、下甲板ニ
 テ、死スルカクコテ 見トドケタ

百十八

所カ幸ヒニ火災ヲナカツタカラ 直ニ
 窓ヲヒラヒテ 蒸氣ヲ逃シテ
 シマツタノデ 物ガハツキリ
 分ル 様ニナツタ 其所ヲ
 蒸氣キカン、破損所ニ 應急修理
 ヲ加ヘタノデアマリ 速
 カガ 減シナカツタソレガ

百十九

タノ 敵艦中ヲ ノカレルヲが
 〇 ヲ ヲ
 デキマシタ 彼是 スル 内
 ホバ シラニ 敵弾ガ ニツ 中ツテ
 之ヲ 倒シ 其上ニ 輝ヒタル
 日本ノ ヌーヨアル 軍艦 旗ガ
 之ト 共ニ 落テ マシタ 此所ガ
 所謂 大和 タマシ 日本 武士

カタギテ アツテ 一分間 タリ 共
 〇 ヲ ヲ
 グンカン キヲ ナクナスニ
 シノビナイト 云フノデ 敵弾
 クル 中ヲ 潜ツテ 新キ 軍カン
 旗ヲ トリタシ 士官ノ 命ヲ 奉ジテ
 直チニ ホナル ホバ シラヲ タツテ
 之ヲ カ、 ゲタレバ 幾 多 兵士ハ

之ニ ハゲマサレテ 勇戦シ 其

し、
働キハ 赤城ノ 光ヲ 共ニ

万世ニ名ヲ カマカシ タル 者テ

有マス 己ノ 身ノ アヤ ウキテ ワス レテ

此ノ フル マイ、 テキ タノハ 実ニ 沈着ニ

シテ 綽々 餘裕アルヲ 表明 スルニ

タル 是 併ナカラ 日本 人ノ 平生ノ

國ニ タイスル 義務ヲ 思ヒ 名譽ヲ

重ニスル 念ガ 強クテ 実ニ

愛スベク 慕フ べき所ノ 氣風ニテアルト

思フ 惜イニハ 其 后 一月 廿一日

威海衛 攻ゲキノ 時 此モノハ

錨ヲ ナゲ 様トシテ 錨ガ

凍ツテ 落ナカッタ 之ヲ ムリニ

す

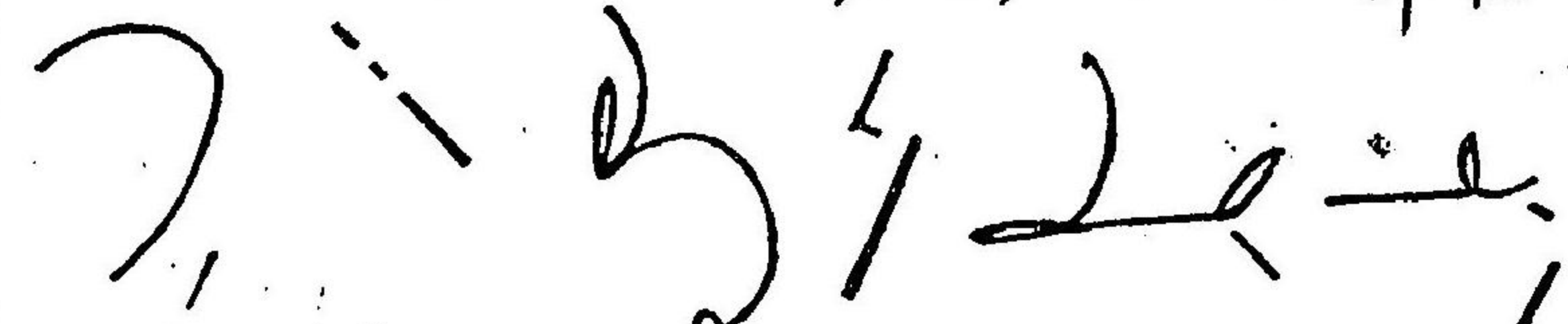
落サウトシテ 錨ノ タノ= 足部ヲ
 イタノ 夫ガ 原因ト ナリテ
 終= 波シ マシタ 同ジク又 赤城
 一等水兵ニテ 花満 勝吉ト
 云フ者、 御嘯ヲ 致シマスガ是モ
 唯 今ノ 合戦ニテ、 敵弾破
 裂ノ タノ= 頬部ヲ クダ カレ

百二十四

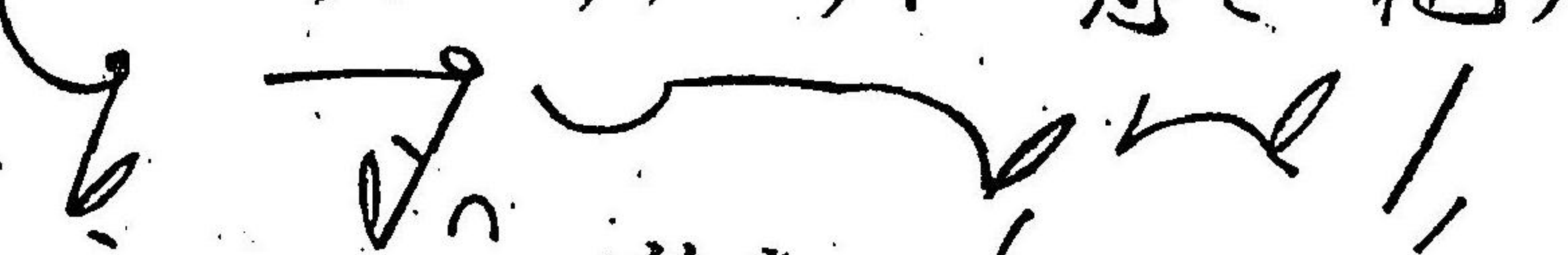
又他ノ 弾片テ 腕ヲ 碎レ 今
 一ツノ 弾片ハ 胸部ニ 中、 非常ニ
 負傷ヲ ウケテ 軍医ノ 許ニ 連テ
 エカレ 軍医ガ 治療ノ 施ヤホ
 シタ片 和ノ キツハ ヲウ 深クハ
 有マヒシ 後テ ヨロシク 御サリマスカラ サキニ
 キテ 居ル 人、 治療ヲ セラレ

百二十五

マシヨト云ツテスマシテ居ツタ ソコデ軍医モ



ヒトイ 傷デハナカロウト 思ヒ他ノ



兵士ヲ先ニ治療シテ此人ノ



番ニ及ンデミルト意外ニ大キッ



アツテ早速病院ハテモ入レネバ



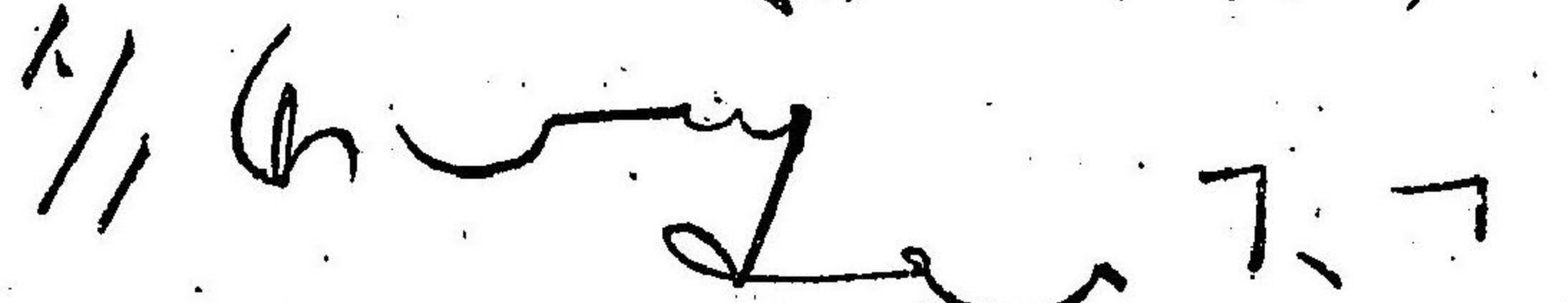
ナラヌ程ヲアツタ夫レニモ



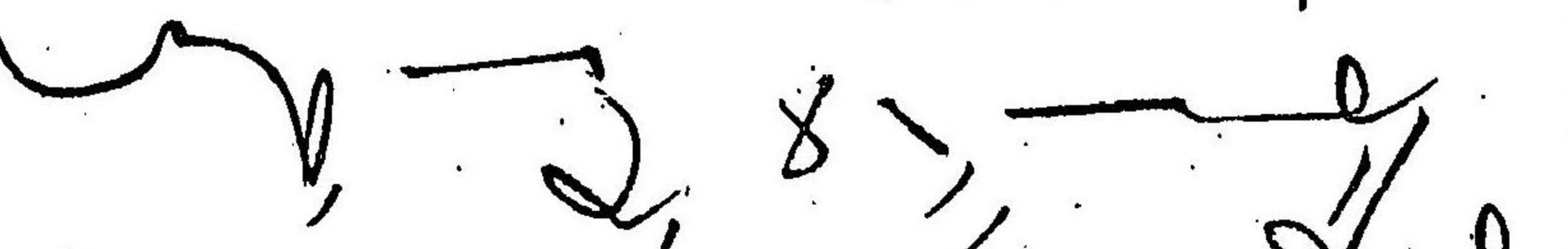
カハラズ泰然自若トシテマツテ

百二十四 百二十六

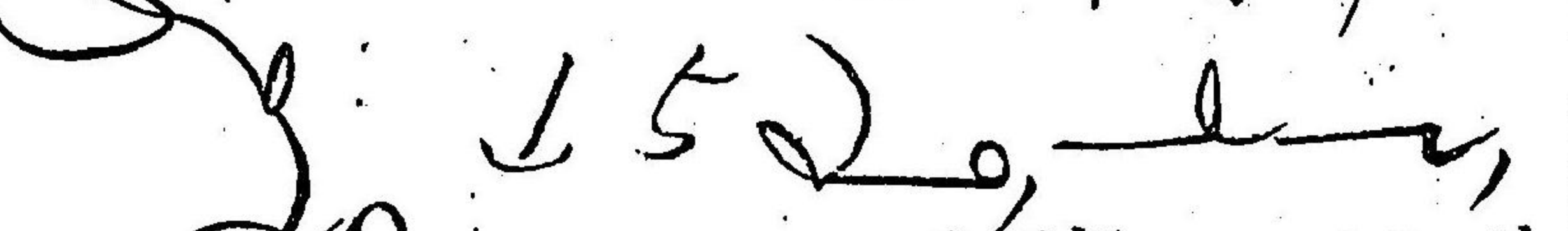
居ツ外云ハナカシデキナイヲデアル



ナイルノ海戦ノ片英國ノ海軍提督



ネルソンハ十五隻ノ軍艦ヲ



ビキイテナボレヲハ優勢ナル艦隊



タカツタガ戦ヒ正ニ



闖ニシテネルソンハ戦圖



ヲ披キ戦争ノ様子ヲ見テ居ル

百二十七

激戦 = 時間 = 涉リ 殆^ド
 我軍ガ 戦勝ヲ得^タカ^ラ 非常 =
 喜んで 自ラ 旗艦、
 後甲板 = 立ッテ 頻リ = 戦況ヲ
 目撃シテ 居ツタ所 = 一發、
 敵弾ガ 其 傍 = 被裂
 シテ 提督、額ヲ 深サ 骨 =

百二十八

違スル 追 傷ケ タヌ =
 目ガ 見ヘナクナツタ 時 =
 治療室 = ツレテ 医官ガ他ノ
 負傷者ヲ措テ 提督ヲ 診察セヨスルヲ
 ネルソンガ 制シテ云フニハ 那邊 =
 壮士カ 倒レテ 居ルテハ ナイ
 アノ 方ヲ 先 = シテ 夫レカラ

百二十九

乃公 = 及ブガ 順タト 実 = ネルソン
 如キハ 天晴 豪傑テアル 其
 部下ヲ 思フノ 情モ 厚シト云ベシ
 是ハ 千古ノ 美談トシテ 讀ム所
 所テ スガ 今 此 花
 満ノ フル マイハ 少モ ネルソン =
 比シテ ユヅル 所ガ ナイ 殊 =

百三十一

ネルソンハ 身提督ノ 大任ヲ 帯テ
 居バ 義 = 於テ サウセネバ ナラヌ
 又 一方ヨリ 考フレバ ネルソンノ
 此言ヤ 或ハ以テ 兵士ノ 人望ヲ
 收メ 様トシ 権略 的ニ
 出タカモ 計リ ガタガ 花満 =
 於テハ 全シカラス 身ハ 一兵

百三十一

卒デ 固ヨリ 人心 收攬ノ必

要ナク 又 病室ニ 居ツタ 者ハ

皆 己ノ 友 違ハ ナレバ

ナンノ 遠慮モ 要セヌノニ 堂々タル

ネルソン 提督ニ ユツラサル

言行ヲ ナシタノハ 千古ニ 傳ヒテ

日本兵士ノ 誇ルベキ 所テアリマス

第二十四章 動詞ノ説明並ニ略符

動詞トハ例ヘハ彼ノ人(行ク)彼ノ心(動ク)等ノ如ク
有意ノ動作ヲ言フ者アリ或ハ春(過ク)夏(來ル)花(開
ク)等ノ如ク無意ノ作用ヲ言フ者アリ又之ヲ大別
シテ自動詞及他動詞ノ二種トナス自動詞トハ蝶
(飛ブ)黄鳥(鳴ク)等ノ如キヲ言フ他動詞トハ彼ノ人
ハ砦ヲ(打ツ)彼ノ人ハ繩ヲ(引ク)等ノ如ク其處分ス
ベキ他ノ事物ノ名稱ヲ必要トス其他詳解スレバ
種々ノ説明ヲ要スレドモ之ハ文典研究ノ範圍ニ
屬スルヲ以テ茲ニ贅セズ而シテ次ニ示シタル符
號モ自動詞他動詞等ノ區別ナク總テ各相通シテ
之ガ符號ヲ示シタリ即チ次ノ如シ

動詞 略符

㇀	ユク	㇁	ウゴク
㇂	過グ	㇃	落ル
㇄	トブ	㇅	ナク
㇆	ミル	㇇	吐ク
㇈	懸ル	㇉	向フ
㇊	キク	㇋	送ル
㇌	届ク	㇍	受ク

㇎	眠ル	㇏	走ル
㇐	歩ム	㇑	醸ス
㇒	中ル	㇓	登ル
㇔	業ル	㇕	媚ビル
㇖	逆フ	㇗	赴ク
㇘	逢フ	㇙	住ム
㇚	入ル	㇛	着ク
㇜	殺ス	㇝	招ク

✓	打ツ	∟	押ス
ㇿ	引ク	ㇿ	飲ム
ㇿ	映ス	7	与フ
ㇿ	吹ク	ㇿ	増ス
ㇿ	開ク	ㇿ	食フ
ㇿ	クル	ㇿ	戻ル
ㇿ	喜ブ	i	怒ル

第二十五章 感動詞説明並ニ略符

感動詞トハ文章又ハ談話等ノ間ニ於テ喜怒哀樂ノ情ヲ發スル詞ナリ例ヘハ(ア、)哀シ(イザ)來レ(アナ)カシコ(アラ)大變等ノ如シ而シテ之ガ慣用法ハ他ノ言語ノ上ニ用キル者アリ或ハ他ノ言語ノ中間又ハ下ニ用キル者アリ然レドモ是等ノコトハ茲ニ贅セザルヲ以テ他ノ文典ニ就テ見ル可シ即チ其符號ハ次ノ如シ

感動詞略符

ㄣ	アラ	ㄣ	アナ
一	アハ	ㄣ	アハレ
ㄣ	ヤー	ㄣ	マヨ
×	イデ	ㄣ	イザ
ㄣ	アハマ	ㄣ	スハ
ノ	オー	ノ	エー

第二十六章 議會用語略符

ㄣ	開會	→	議長
ㄣ	副議長	ㄣ	提出
ㄣ	議案	→	原案
ㄣ	廢案	→	議員
ㄣ	委員	ㄣ	常置委員
ㄣ	番外	ㄣ	書記
ㄣ	通常會	ㄣ	臨時會

一	委員會		秘密會
/	多數		少數
ㄨ	反對	→	起立
↑	可決	↘	否決
ㄩ	朗讀	ㄩ	說明
ㄊ	第一讀會	ㄩ	第二讀會
ㄋ	第三讀會	∟	第一次會
ㄎ	第二次會	ㄎ	第三次會

↘	修正	ㄨ	發言
ㄩ	發議	ㄎ	消滅
ㄩ	贊成	ㄨ	不贊成
↘	建議案	ㄎ	上奏案
↘	修正委員	ㄎ	懲罰委員
ㄩ	審查	ㄩ	調查
ㄩ	陳述	↘	辯明
↘	辯駁	ㄩ	問題

ノ	委員長	㇏	政府委員
㇏	報告	ノ	演壇
㇏	問題外	㇏	質問
ノ	削除	ノ	特別
ノ	帝國議會	ノ	縣會
ノ	市會	ノ	區會
ノ	郡會	ノ	村會
ノ	町會	ノ	府會

㇏	豫算	㇏	豫算案
ノ	明白	ノ	取消
㇏	增加	㇏	公然
ノ	改正	ノ	目擊
㇏	認可	㇏	不認可
㇏	誤解	ノ	利害得失
ノ	明文	ノ	但書キ
ノ	別紙	㇏	符箋

贖成者	說明者
歲入經常部	歲入臨時部
租稅	地租
所得稅	營業稅
酒稅	鑛業稅
海關稅	賣藥營業稅
印紙收入	森林收入
官有物貸下料	免許及手数料

懲罰及沒收金	雜收入
官有物拂下代	公債証書
歲出經常部	歲出臨時部
俸給及諸給	廳費
修繕費	死傷手当
賠償及訴訟費	雜給及雜費
旅費	機密費
外國留學生費	神官費

檢疫費 病院費

土木費 恩賜及救助費

褒賞費 滯納處分費

監獄費 衛生費

教育費 海員取締費

警察費 文官恩救

軍人恩救 被服費

馬匹費 演習費

兵器彈藥費 軍事費

學生費 水産調査費

蠶種檢査費 難破船費

補助費 臨時費

一時賜金 新宮費

工場費 商況視察費

ビヤク

満場大喝采 謹聽々

ㄣ	拍手大喝咪	ㄣ	拍手喝咪
ㄣ	會長	ㄣ	副會長
ㄣ	會場	ㄣ	演題
ㄣ	滿場諸君	ㄣ	滿場立錐 ノ地ナシク

第二十七章
諸官衙名称略符

ㄣ	內閣	ㄣ	宮內省
ㄣ	內務省	ㄣ	農商務省
ㄣ	陸軍省	ㄣ	海軍省
ㄣ	司法省	ㄣ	逓信省
ㄣ	外務省	ㄣ	文部省
!	大藏省	ㄣ	府廳
ㄣ	縣廳	ㄣ	警視廳

會計檢查院 ↙ 大審院

樞密院 → 控訴院

行政裁判所 ↘ 地方裁判所

區裁判所 ↘ 參謀本部

憲兵本部 → 憲兵屯所

中央氣象臺 — 鑛山監督所

砲兵工廠 ↘ 電話交換所

公使館 ↙ 郵便電信局

百五十

警察署 ↘ 監獄署

郡役所 → 區役所

稅務署 ↘ 大林區署

葉烟草專賣所

百五十一

第二十八章
諸學科目名稱略符

倫理學	道德學
修身學	修辭學
哲學	禪學
漢學	英學
法學	醫學
診斷學	藥物學
外科學	內科學

眼科學	產科學
理化學	生理學
物理學	化學
解剖學	衛生學
國文學	國學
數學	地理學
地文學	地質學
歷史學	礦物學

簿記學 速記學

文學 工學

農學 博物學

動物學 山林學

電氣學 天文學

經濟學 理濟學

植物學 統計學

考古學 易學

畫學 染工學

佛學 神學

兵學 採鑛學

幾何學 代數學

美文學 教育學

心理學 政治學

社會學 妖怪學

第二十九章
綴符法 議事録抄

→ ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ
 ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ
 ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ
 ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ
 ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ
 ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ
 ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ

ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ
 ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ
 ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ
 ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ
 ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ
 ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ
 ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ
 ㄣ ㄣ ㄣ ㄣ

Handwritten musical notation on the left page, consisting of ten lines of notes and rests within a rectangular frame.

Handwritten musical notation on the right page, consisting of ten lines of notes and rests within a rectangular frame.

Handwritten musical notation on page 106, consisting of ten staves of music written in a cursive style.

Handwritten musical notation on page 107, consisting of ten staves of music written in a cursive style.

Handwritten musical notation on page 62, consisting of six staves of music with various notes and rests.

Handwritten musical notation on page 63, consisting of six staves of music with various notes and rests.

Handwritten musical notation on page 144, consisting of seven lines of notes and rests.

Handwritten musical notation on page 145, consisting of seven lines of notes and rests.

前章 綴符法ノ譯文

議長公爵近衛君

感化法案政府提出衆議院送附第一讀會ノ續キ特別委員長報告

伯爵吉井幸藏君演壇ニ登ル

感化法案特別委員會ノ經過及ビ結果ヲ御報告致シマス此感化法案ノ提出サレマシタ理由ハ罪ヲ犯スノ虞アル不良ノ少年ガ段々殖マストソレカラ從來懲治所ニ留置シテアル者又將來懲治所ニ留置セラルベキ様ヲ幼者等ヲ収容シテ適當ノ感化教育ヲセントスルノ法律案ヲ有マスソレテ委員會ニ於キマシテハ政府委員カラモ十分ニ説明ガ御坐リマシタ又委員カラモ委シイ質問モ御坐リマシタ結果此法案ハ誠ニ必要ナ法案テアル且費用モ多額ヲ要スルコトヲナイカラ速ニ是ハ可決シタ方ガ宜シカロウト云フコトヲ委員會ニ於テハ此法案通り衆議院ニ於キテハ此附則ノ第十四條ガ修正ニナツテ居リマスガソレハ其通りテ差支ナカロウト云フノテ可決スベキ者ト決シマシタ此段御報告致シマス

子爵小笠原君賛成○子爵岡部君賛成○三好君賛成○其他賛成ト呼ブ者多シ○議長讀會省略ハ成立チマシタ○田中源太郎君政府委員ニ一應質問致シトウ御坐リマスガ議長是ニ附テハスカ田中源太郎君ハイ議長宜シウ御坐リマス一寸待ツテクダサイ讀會省略ノ動議ガナリタツテ居リマスカラ讀會省略ニ同意ノ諸君ハ起立ヲ請ヒマス起立者多數議長三分ノ二以上トミトメマス讀會ハ省略ニナリマシタ田中源太郎君政府委員ニ質問致シマスガ此第四條ニ御坐リマス代用感化院ト云フコトヲ御坐リマスカ現在或団体ヲ以テ感化院ヲ立テマシテサウシテ府縣監獄費ノ内カラ補助シテ成立ツテ居ル感化院ガ有マス此法案ニヨリマスルト第三條ヲ府縣ノ負擔トスルト云フコトニナツテ居リマス第四條デハ代用感化院云々ト云フコトニナツテ居リマス代用感化院ハ府縣ノ費用ヲ以テ補助スルコトガ出來ル積リテ有マスカ補助スルコトハ出來ヌ積リテ有マスカ其コトヲ一應御答ツテ致シマス政府委員小松原英太郎君御答致シマスガ補助スルコトハ無論出來ル

積リテ有マス田中原太郎君出來ルト云フノテ有
マスカ政府委員小松原英太郎君出來ル積リテ有
マス名村泰藏君一寸一言御タツテ致シマス第五
條ノニテ有マス懲治場留置ノ言渡シヲ受ケタル
幼者或ル國テ致シテ居ル所ノ者ヲ見マスルト此
第二ニアル所ノ者ニ對シテハ監獄テ費ス所ノ半
額ヲ此感化院テ遣ツテ居リマスガ此案ニ於テハ
國庫支辨ニ監獄ハナリマシタカラヤハリ半分ト
カ或ハ三アリマス分ノ二トカ費用ヲヤル積リテ
カトシテ都合ニナル者デ有マス政府委員小松原
英太郎君御答致シマスガ此感化院法ノ施行ノタ
メニハサホト巨額ノ費用ヲ要シマス見込ミテモ
有マセズ積リテ有カラマツ府縣ニ悉皆負擔サス
マス名村泰藏君ソレデハ國庫カラ補助ハ御坐リ
マスカ政府委員小松原英太郎君左様テ御坐リマ
ス

第三十章 練習ノ方法及其他ノ注意

前各章ノ符號ヲ研究練磨シタル後ハ毎日一時三
十分乃至二時間位ツ、演説講話等ノ書又ハ新聞
雜誌等ヲ他人ニ讀マシメ之ヲ速記シ以テ綴符法
ノ練習ヲナス可シ(速記法ヲ研究スルニハ互ニ交
換順讀シテ練習スルノ便アル故可成的多人數ニ
テ研究スルヲ可トス)始メハ緩ニ讀マシメ伎倆ノ
進歩スルニ從ヒテ急ニ讀マシムルヲ要ス速記シ
タル者ハ必ズ之ヲ翻譯シテ練習ス可シ而シテ稍
ヤ學術ノ進達シタルトキハ演説議事講談說教等
ノ會場ニ臨席シテ實地ノ練習ヲナシ亦速記シタ
ル者ハ之ヲ拋棄セズシテ可成的急ニ翻譯ス可シ
然ラザレバ時日ヲ經過スルニ從ヒテ記憶ヲ失シ
テ翻譯ニ困難スルコトアルカ故ナリ而シテ雄辯
ナル人ノ演説ヲ速記スルモ毫モ差支ナキニ至ル
マテ熱心ニ練習スルヲ要ス

完全ナル速記者タラント欲スル者ハ單ニ速記ノ
學術ニ達スルノミナラズ亦諸學ノ大要ニ通曉セ
ザル可カラズ例ヘハ佛教演説ヲ速記スル場合ニ

發行所

東京速記法研究學會

東京市神田區錦町一丁目十二番地

印刷所 欽明堂

東京市日本橋區本銀町四丁目十六番地

印刷者 戶田爲二良

東京市日本橋區本銀町四丁目十六番地

著發行兼者 渡邊喜勢治

東京市神田區錦町一丁目十二番地



明治三十九年十一月十六日發行

明治三十九年十一月十三日印刷

當リ佛語ヲ知ラザルトキハ大ニ翻譯ニ困難シ亦
 醫學的演說ヲ速記スルトキニ當リ病名或ハ藥名
 等ヲ知ラサレバ又翻譯ニ困難ス可シ其他哲學ニ
 マレ禪學ニマレ法律ニマレ地理ニマレ歴史ニマ
 レ總テ諸學ノ大要ニ通スルヲ要ス

各地方ニヨリテ言語ヲ異ニスル者故亦四方ノ方
 言ニ通セサル可カラズ然ラサレバ會々演說談話
 等ノ意味ヲ誤解シテ翻譯ヲ誤ルコトアル可シ今
 其例五六ヲ示ス(オゾイ品)鹿品(テツペー)頂上(タン
 ト)澤山(ヒトヨサ)一夜(ツブ)或ハ(ツボ)田螺ボサ或ハ
 (カレボ)枯枝(イカイ)或ハ(ツナイ)大ナル等ニシテ其
 他枚舉ニ暇アラズ然レトモ一人ニシテ諸學ノ大
 要ニ通シ亦ハ方言等ヲ一々記憶スルハ實際上容
 易ニ得ベカラサル事ナレバ平素是等ノ事柄ヲ服
 膺シテ忘却セザルトキハ長日月ノ中ニ漸次通曉
 シテ完全ナル速記者タルコトヲ得ベシ

新撰實用速記學講義錄終



特50

586

速記學講義錄

3

国立国会図書館